

1 会議の名称

岐阜県立岐南工業高等学校運営協議会（第1回）

2 会議の構成

学校運営協議会委員

赤 塩 登	濃尾電機株式会社	取締役
後 藤 潤 一	塩谷建設株式会社	工事部課長
正 村 美 里	岐阜県美術館	副館長兼学芸部長
透 千 保	フリーアナウンサー	
松 尾 康 史	P T A	会長
山 口 禎一郎	山口鋼業株式会社	専務取締役

（委員名は五十音順）

学校側

堀 修	校長
樋 口 高 広	教頭
安 江 博	教諭（教務主任）
古 家 幸 司	教諭（生徒指導主事）
東 松 宏 明	教諭（進路指導主事）
三 輪 照 導	教諭（工業部長）
福 永 繁 隆	教諭（地域の担い手育成事業担当）

3 会議の目的

学校運営・教育内容等について地域社会や保護者等から幅広く意見を聞き、その支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催

令和2年7月22日（水）（書面開催）

5 会議の概要

- 学校運営協議会の委員構成について
- 令和2年度教育指導の重点について
- 令和2年度学校経営計画（高等学校版マニフェスト）について
- 令和2年度 教務部の方針と重点
- 令和2年度 生徒指導部の方針と重点
- 令和2年度 進路指導部の取組、年間計画
- 令和2年度 工業部の指導方針
- 地域産業の担い手育成総合戦略事業の実施要項
- 新型コロナウイルス感染拡大防止と学校の現状

6 ご意見等

○ 学校の教育目標について

- ・品格日本一を目指すことはとても素晴らしいことだと思います。挨拶、身だしなみ、マナーの遵守は、当たり前だが、とても重要なことだと思います。
- ・ICT教育についてだが、タブレットやパソコン等の機器は、弊社においても日常的に使用しており、基本的な操作方法を習得するだけでなく、興味をもって、より有効に活用ができるようになることが大切だと思います。
- ・「創意実践」という校訓のもと、「知・徳・体の調和を目指し、心豊かで、創造力・実践力のある産業人の育成を図る」という教育目標を実現するために、授業等で手厚い指導がされていることが伺えました。また、「工業高校品格日本一を目指す」という教育目標に示されているように、各種技能検定を受検したり、様々な競技会へ参加したりするなど、精力的な活動は高く評価できます。
- ・高度な技術と知識を持ち、人格にも優れ、社会に有為な貢献ができる人材を育成するため、引き続き指導をお願いしたい。
- ・理数系、IT系の学力・知識が一層求められる世の中になっていくことと思います。学校の経営計画にも十分に盛り込まれており、素晴らしいと感じます。
- ・ICTに関しては、スマートフォン、タブレット、パソコン等の機器操作に慣れている生徒が多いと思うので、画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことで、生徒の興味・関心や学習に対するモチベーションが高くなると思います。
- ・ものづくりや部活動を通じた人づくりという観点からは、スマートフォンの普及により低下しているように思われるコミュニケーション能力（対話力、表現力）を学校教育の中で養うという効果が期待でき、ICTだけでは養われない部分を補うことが出来ると思います。
- ・学校経営計画に基づき、各分掌で細案を組み立てられていますが、アプローチが統一されていないようです。学校経営計画は、企業でいえば経営理念に基づく今期の事業計画書であり、それを各部署が展開していくことで企業全体の目標達成となります。学校が掲げる教育目標の「創造力・実践力のある産業人の育成」に向けて、各分掌の取組がより具体的にイメージできる方針とした方がよいのではないかと思います。生徒も保護者も、それによって学校全体の教育指針が理解でき、目指す将来像が構築できるのではないのでしょうか。

○ 工業教育の推進について

- ・生徒の学力層に応じたコースやクラスの設定は、とても素晴らしいサポートだと思います。
- ・岐阜県をはじめ、東海地方は「ものづくり」が盛んな地域です。本校は、産官学の連携を通して次世代の成長産業を担うスペシャリストの育成に取り組んでいます。また、技能だけでなく、職業人として必要なマナーやコミュニケーション能力、人間性の育成にも力を入れており、その取組は高く評価できます。今後は、人工知能を扱うことができる情報技術系技術者の育成も望まれるのではないのでしょうか。
- ・ものづくりの国、日本を支える人材の育成をお願いします。
- ・ICT環境の整備と活用がうまく出来るとよいと思います。
- ・最先端のICT環境で、高校教育を体験、体感することは重要だと考えます。
- ・見た、聞いた、触った等の体験は、他の学びの発展にも繋がり、地域産業や関係諸機関への就職等の道も開かれると思う。
- ・中長期インターンシップを通して、就業体験の中での学びが自分のやりたいことへのビジョンに繋がっていくと思う。
- ・発表会や各種大会などを通して、表現能力の育成をより効果的に図ってけるとよいと思います。
- ・工業部の指導方針が工業教育の要となるわけですが、今年度の研究テーマ「地域産業の振興を探究する工業教育の推進」に対する具体的な行動方針が明確でなく、基本的な理念の「ふるさと教育の充実」の中に少し触れられているだけです。年度のテーマとして挙げるならば、どのような教育を通じて探究意識が芽生えるのか、今後どのように地域産業と連携して特色ある教育を推進していくのか等を、具体的な行動指針に挙げた方がよいと思います。中期インターンシップと企業見学がその核となる

と思いますが、企業との連携をより密にし、実践・体感を通して、いかに企業現場の情熱を感じてもらえるかが大切です。企業見学では、単に見学するだけではなく、経営者から直接「その会社のもので作りがいかにも面白いのか」、「地域に貢献しているのか」をご自身の経験を踏まえて聞かさせていただくことが、生徒にとっては大きな気づきになるのではないのでしょうか。企業側にとっても工業高校と繋がることは、将来の人材確保へ期待感がもてるので、双方にとってメリットがあるはずで、その中で、生徒が地元企業に興味を持ち、地域産業の将来性に気づくという流れになれば、地域振興にも繋がると思います。

○ その他について

- ・ 離職率について分かれば教えてほしい。
- ・ 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、授業時間の確保が難しいと思います。また、精神的に不安定になったり、進路に不安を抱えたりしている生徒も多いと思います。感染防止対策を徹底し、生徒達が心身ともに健康で学校生活を送れるようにお願いします。
- ・ コロナ禍における教職員の苦労をお察しいたします。少しでも早く、日常を取り戻せることを心よりお祈りいたします。
- ・ 生徒の学びは地域産業の力となると思います。地域産業に携わる一員として、より地域産業が活性化することは嬉しいことです。
- ・ 今後も最大限のサポートをさせて頂きたいと思います。
- ・ 最近の子供たちは、ゲーム機やスマートフォン、パソコンの普及によって、バーチャルな世界が常態化しており、生の迫力や五感を使った現実体験の感動が希薄です。自ら率先して行動し、視野を広げる体験を通して、興味がわき、好奇心が育ち、探究心が芽生え、教養が深まります。このプロセスを学校目標に沿って学校全体で推進することが、本校を特色のある、唯一無二の工業高校とするのではないのでしょうか。

7 会議のまとめ

- ・ 今年度の学校経営計画や各分掌の指導方針については、おおむね賛同を得られました。業務削減の観点で、既存の文書を流用して今回の配布資料を構成しているため、資料全体の統一感に違和感を生じている状況です。主たる目標と、それを推進する各分掌の方針説明については、表現の仕方に改善の余地がありますので、より見やすくする工夫や、分掌ごとの行動計画の整え方（プランの組立）等について、業務効率とのバランスを取りつつ改善を進めてまいります。
- ・ ICT機器の導入については、タブレットPCを活用する環境が徐々に整ってきています。電子教科書などのデジタルコンテンツの利用や、動画教材の提示、教職員の教材作成を支援するソフトの導入等、様々な活用方法が可能となるよう導入が進められています。生徒の興味・関心を高めるられるよう、授業での効果的な実践に向けて教職員への研修等を進めてまいります。
- ・ 知識や理論を学ぶ座学だけでなく、実際に機器等に触れ、操作を学ぶ実習、あるいは技能検定や各種ものづくり競技会等への挑戦を通して、その分野の興味関心を高めるとともに経験値を高め、自信を持たせる教育を推進します。
- ・ 離職率についてのデータは、岐阜県工業教育部会でまとめた資料を送付させていただき、次回の会議の際に調査状況等を説明させていただく予定です。
- ・ 今年度はコロナ禍の影響で、生徒の校外での活動や外部の方を招いての事業が容易に実施できない状況です。県の感染症対策ガイドラインに従って計画を立案し、実施しているところであり、なかなか思うように取り組めていないのが現実です。地域企業との連携やインターンシップ等、例年実施している事業でさえ実施できない状況です。これまでの各種イベントへの参加や企業との連携については、コロナ終息後に従前の状態に復帰させ、さらに強化して実施できるようにと考えています。